

Special Feature

ジョン・レノン音楽祭 2005

Dream Power ジョン・レノンスーパーライヴ

オノ・ヨーコ 記者会見

2005.10.4

ニッポン放送イマジン・スタジオ



Photo: © Jack Mitchell

ジョン・レノンの没後 25 周年、生誕 65 周年にあたる 2005 年、10 月 4 日（火）「ニッポン放送イマジン・スタジオ」で行われた『ジョン・レノン音楽祭 2005 実行委員会』主催によるチャリティー・コンサート『Dream Power ジョン・レノン スーパー・ライヴ』の記者会見には、コンサートの提唱者であるオノ・ヨーコさんと LOVE PSYCHEDELICO が出席した。過去 4 回のコンサートの売上金からアジア・アフリカに 42 校の小・中学校が建設され、今年も新たに 8 校が加わり、学校の建設数は目標の 50 校を達成する。

「今度が 5 年目のコンサート。本当に感慨深いです。初めは学校を建てるなんて、子供たちが嫌がるんじゃないかと思ったけれど、子供たちが喜んでくれる姿を見て、自分が勘違いしていたんだと思いました。今後でもまた 10 年、20 年と続けていくことでどんどん広まっていけばいいと思っています」と、まずヨーコさんのコメントが伝えられた。質疑応答に入ると、今回初めてソロ・パフォーマンスを披露するヨーコさんは「ちょっと恥ずかしいような気もしてます…」とはにかみながら、「ジョンの曲だけでいいんじゃないかなと思ったんですけど、今回このような機会を与えられたので、暴力でもっていろんなことを解決していくう世の中がどんなに虚しいことかということを取った私の曲『I Want You To Remember Me』を選びました」と、その選曲理由を語ってくれた。前回に続き、コンサートの会場となる日本武道館については「初めてジョンがビートルズと一緒にやった所ですからね…」と、感慨深げなヨーコさんの表情も印象的だった。

『愛と平和』を提唱するジョンの精神を引き継ぐヨーコさんは、先頃アメリカを襲ったハリケーン“カトリーヌ”の被害に対しても「黙って静かに」という姿勢で、「送金したお金を直ぐに食物に換えられて、直ぐに困った人たちに渡せる」というチャリティーに協力しているようだ。また、世界中の子供たちにも「今は科学的にもいろんなことが発見されている、病気なんて無くなるような凄惨な世界が直ぐそこに待っているのだから、希望を持ってどんでん一緒にやってみましょう」と、力強くポジティブに語りかけてくれた。そして、「もしジョンが生きていたら？」という問いには「彼は暴力による解決が非常に嫌いだものですから、やっぱり生懸命『愛と平和』を訴えていると思いますよ」というヨーコさん。「ジョンの魂」は、現在もしっかりと受け継がれている。また、生前ジョンは「ポールに比べて、僕の歌はカバーされるのが少ない…」と、凄くこぼしていたとの秘話も明かしてくれた。「あなたの曲は歌詞も難しい、あなたしか歌えないような歌だから、皆に敬遠されるんじゃないの？」と慰めたそだが、何とも微笑ましい夫婦の会話だ。だが、「簡単な歌じゃないか」とけなされたこともあるという「イマジン」を例に挙げ、「本当に大事な優しいメッセージを伝えていきたいという気持ちで作った歌」の大切さを語り、「ジョンに『あなたの歌は今も皆に歌われ続けているわよ』って言ってあげたい！」というヨーコさんのことばに、思わず胸がジーンと熱くなった。そして、ジョンと息子のショーン君とサイクリング等をして過ごした軽井沢での一時を、「あれは親子で過ごした本当に楽しいイベントだった」と、懐かしげに語ってくれた。

最後に、今の日本の音楽シーンについて「今の日本の音楽界、特にロックは凄いとしますね。誇りに思ってます。でも、アメリカとかヨーロッパではほとんど知られていないんですよ。音楽はどこでも盛んであるっていうことは非常に大事なことだから、それを共有したいっていう気持ちも凄くあるんです。音楽っていうのは、ヒーリングの力や何かを治す力があるんですよ。そういう意味で、その破壊的なになっている世の中を音楽でカバーしていくことも大事なんだと思います。日本の音楽界の人たちもどんでん世界に進出していってくださるといいと思いますね。…でも、進出しないでもいいんですよ。何故かっていうと、音楽を作っていることによって、そのバイブレーションっていうのが必ず世界に動いて影響を与えているわけですからね」とのコメントをくれ、毎年行われるこの『ジョン・レノン・スーパー・ライヴ』でも、「出演してくれるアーティストの皆さんがとてもいい顔していっちゃいますね。その姿を見ると『嬉しいなあ』と思います」と優しく語ってくれた。魅力的な笑顔とチャーミングな一面も魅せてくれたヨーコさん。とても 72 歳とは思えない若々しさだ！ あのジョンが惚れた理由を改めて実感！！



10 月 7 日（金）の『Dream Power ジョン・レノン スーパー・ライヴ』に先立ち、オノ・ヨーコさんが出席した記者会見に参加させて頂いた「The Walker」。Jazz がメインの雑誌ながら、この場に立ち会えたことに大変な誇りを感じているが、実は John & Yoko と Jazz には深い縁がある。

オーネット・コールマンが参加した『Yoko Ono/Plastic Ono Band (*)』、マイケル・ブッカーが参加した『Feeling The Space (*)』、『Season Of Glass』、そのマイケルが、兄ラディとブッカー兄弟で参加した『A Story』。トニー・ウィリアムズが参加した『Starpeace』(注：(*) はジョンも参加した作品) など、ヨーコさんのソロ作品に大物ジャズマンが参加していることは意外に知られていない。そして、ヨーコさんの感性は、オーネットを代表とする Free Jazz の感覚に通じるものがある。(The Walker 編集部)

ジョン・レノン音楽祭 2005

Dream Power

ジョン・レノンスーパーライブ

2005.10.7 @ 東京・日本武道館

取材 & 文：加瀬正之

John Lennon, The Beatles ゆかりの地に日本のトップ・アーティストが結集！
偉大なるロックンローラー、ジョン・レノンのナンバーを歌う感動のステージ！！

“生涯一前衛芸術家” Yoko Ono の真髄を見た！

「ブッ殺してやる！」「やめて！ 許して！
誰か助けて！」「うう…」「あああ…」

武道館に響き渡るヨーコさんの叫び声…。
客席を埋め尽くした約 8,000 人の観客は、
その迫力に完全に圧倒されていた。

このコンサートの終盤、この日一番期待していた瞬間がやって来た。今回が自身初となるソロ・パフォーマンスを披露したヨーコさんのステージ。曲は 2001 年にリリースしたヨーコさんのソロ・アルバム『Blueprint For A Sunrise』からのナンバーで、ドメスティック・バイオレンス (DV) をテーマにした「I Want You To Remember Me」。

このソロの話題を記者会見で聞いた時は曲名の感じから、しっとりとしたバラード調のナンバーを連想してしまっていたが、正直、度肝を抜かれたと共に感動して、何だか凄く嬉しくなっていました。72 歳にしてこのエナジー！そして、凄まじいオーラ！！その昔と変わらぬ前衛アーティストぶりに心底恐れ入った。

日本語の歌詞に身ぶりを交えて、歌を演じ切るヨーコさん。10 代～20 代の若い世代の観客、ヨーコさんの“前衛アーティスト”の部分を知らない若い世代の観客たちは、完全に魂を抜かれた様に見開きステージに釘付けにされていた。

彼等にとってもこの約 10 分間のステージは、“衝撃”と言えるほど貴重な体験になった筈だ。まさに“Power To The People”を目の当たりにした瞬間だった。

いきなりヨーコさんのステージから取り上げたが、オープニングの「Rockn' Roll Medley」から感動の連続だった。総勢 13 組のアーティストが登場したが、個人的に

は、ジョンのトレードマークでもある黒いリッケンバック（日本公演の曲目付）を弾きながら「A Hard Days Night」、「Dizzy Miss Lizzy」を熱唱し、ひたすらいい味を出していた奥田民生。パワフル & 流石の音量で「Power To The People」、「Woman Is The Nigger Of The World」を披露した小柳ゆき。そして、ジョンの名盤『ダブルファンタジー』から「I'm Losing You」、「Woman」、「(Just Like) Starting Over」を披露した YOSHII LOVINSON は良かった。YOSHII は翌日に 39 歳の誕生日を控え、来年から本名（吉井和哉）での活動を宣言したが、参加アーティストの中で一番黄色い声援を受けていたのが彼だった。

そして、忘れてならないのが初登場となった息野清志郎の存在。ギター一本での「Nowhere Man」。日本語によるオリジナルの歌詞で歌った「Mother」と、“戦争を放棄して平和のために尽くす”と記されている日本国憲法 9 条を取り上げ、「ジョンみたいじゃないか！憲法 9 条を自慢しよう！！」と呼びかけ、「夢かも知れないでもその夢を見てくれるのは君ひとりじゃない仲間がいるのさ…」と熱唱し、ギターも弾きまくった「Imagine」を披露。こんなにシンプルなステージに心に訴えかけてきた日本語の歌詞は久しぶりだ。

本人も“難しい歌”と言っていた「Watching The Wheels」を見事に歌い切った BONNIE PINK。「Real Love」、「Cold Turkey」、「Oh Yoko」で 2 人の個性を出していた LOVE PSYCHEDELIC といった若い世代のアーティストも。“ジョンの魂”を次世代へ伝えてくれる大きな役目を果たした。また、最近ではアメリカの「中心ネットワーク」で放送され、子供を中心に人気を呼んでいる番組『Hi Hi Puffy AmiYumi』でも話題の PUFFY は、「Lucy In The Sky

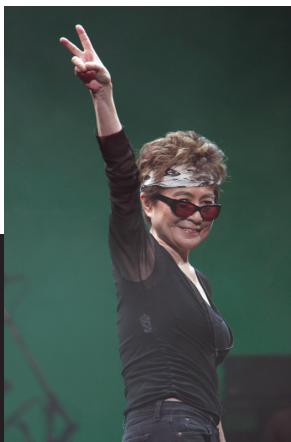


Photo: © Joe Takano/Produce Centre Co., Ltd.

With Diamonds」、「Whatever Gets You Thru The Night」を歌ったが、2 人のあの独特のほのぼの感が曲とマッチしていて良かった。

曾我部恵一はユニットで、「Hold On」と「Across The Universe」をシャウト！ウッドベースとサクソスとのトリオというシンプルな編成で聴くジョン・ナンバーは新鮮だった。大のジョン・レノン & ビートルズファンくとしても有名な杉真理も「Tell Me Why」、「Glow Old With Me」を熱唱し、相変わらずの爽やかさで会場全体に爽快感を届けてくれた。また、このコンサートの屋台骨を支えていたジョン・レノン スーパー・ライヴトリビュート・バンド「Dr. Winston O' Boogie」<杉真理、土屋潔 (g)、和田春比古 (key)、古田たけし (ds)、松尾“モンゴル”英樹 (key, cho)、押葉真吾 (b)> の演奏も最高だった。その中でも、「Clipped Inside」、「Baby Please Don't Go」の 2 曲でソロによるヴォーカルも披露した押葉真吾の歌声は、5 目目のビートルズとも言われる名プロデュサー、ジョージ・マーティンにも称賛されたと言う通り素晴らしい、ほぼオリジナルに忠実なプレイを聴かせてくれた土屋潔のリード・ギターもいびり銀の存在感を放っていた。

歌声こそ披露しなかったが、「ジョンとヨーコの出会い」や「Mind Games」、「Imagine」



Photo: © Joe Takano/Produce Centre Co., Ltd.

“R&R Medley”でコンサートがスタート！

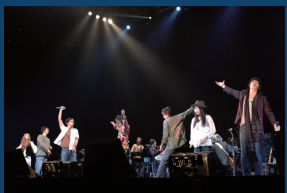


Photo: © Teppal/Produce Centre Co., Ltd.

“R&R Medley”のラストは“Stand By Me”を熱唱！



Photo: © Teppal/Produce Centre Co., Ltd.

ヨーコさん初のソロ・パフォーマンス！



Photo of John & Yoko: © Jack Mitchell

を朗読した小泉今日子。後半の進行役として登場した宮本亜門も長丁場のコンサートを要所で引き締めた。ただ代わる代わる歌い続けるのではなく、途中で「ジョン・レノン・ヒストリー」やプロモーション・ビデオの映像を交え、ダラダラ感を感じさせない演出も効果的で、感動を呼んだ。そして、ハイライトの一つであった光のアートを作る「ONOCHORD（オノコード）」による「愛と平和」のメッセージ。アリーナへスタンドを埋め尽くした入場者全員にプレゼントされたペンライトによる「I LOVE YOU」のサインを点灯するというアイデアは、いかにもオノ・ヨーコらしく、このシーンも感動的だった。

ONOCHORD



© YOKO ONO 2005

ラストは出演者全員で「Imagine」を合唱。「Happy Birthday! John !!」という祝福の声に日本武道館が包まれ、ヨーコさんを先頭に、今後ジョンの遺志を継ぎ、このコンサートを継続していくことを約束してくれた。…もし生きていれば、2日後の10月9日で65歳となっていたジョン。そして、25年前に凶弾に倒れていなければ、ソロとしてこの日本武道館のステージに立つ予定だったジョン。武道館の屋根を突き抜け、遠い空の彼方から優しく微笑むジョンの笑顔が見えてくるような最高の夜だった。

今後は、是非ジャズ・シーンからのアーティスト参加を期待しながら、雨上がりの夜空に輝く大きな玉ねぎを後にした…。

Photo: © Joe Takano/Produce Centre Co., Ltd.



Photo: © Teppei/Produce Centre Co., Ltd.

<演奏曲目 & アーティスト>

0. DJ【開演前のご案内】(ニッポン放送 亀瀬昭信)
1. Rock'n Roll Medley: Twist And Shout~Slow Down~Slippin' And Slidin'~You've Really Got A Hold On Me~Mr. Moonlight~Be Bop A Lula~Money~Please Mister Postman~Rock And Roll Music~Stand By Me (忌野清志郎、奥田民生、押葉真吾、小柳ゆき、杉真理、曾我部恵一、YOSHII LOVINSON、LOVE PSYCHEDELICO)
2. Revolution (BONNIE PINK)
3. Tell Me Why (杉真理)
4. Lucy In The Sky With Diamonds (PUFFY)
5. A Hard Days Night (奥田民生)
映像【ジョン・レノン・ヒストリー前半】
6. Hold On (曾我部恵一ユニット)
7. Across The Universe (曾我部恵一ユニット)
プロモーション・ビデオ【ジラース・ガイ】
8. Real Love (LOVE PSYCHEDELICO)
9. Gold Turkey (LOVE PSYCHEDELICO)
10. Oh Yoko (LOVE PSYCHEDELICO)
11. Whatever Gets You Thru The Night (PUFFY)
【ジョン・ヨーコの出演】〜「イベント・ゲームズ」朗読【小泉今日子】
12. Power To The People (小柳ゆき)
13. Dizzy Miss Lizzy (奥田民生)
14. Watching The Wheels (BONNIE PINK)
15. Glow With Me (杉真理)
16. Glimped Inside (押葉真吾)
映像【ジョン・レノン・ヒストリー後半】
17. Baby Please Don't Go (押葉真吾)
18. Woman Is The Nigger Of The World (小柳ゆき)
19. I'm Losing You (YOSHII LOVINSON)
20. Woman (YOSHII LOVINSON)
21. (Just Like) Starting Over (YOSHII LOVINSON)
22. 【世界が100人の時だったから】「Imagine」朗読【小泉今日子】
23. Nowhere Man (忌野清志郎)
23. Mother (忌野清志郎)
24. Imagine (忌野清志郎ユニット)
【オノ・ヨーコ紹介】(宮本亜門)
25. I Want You to Remember Me (オノ・ヨーコ)
26. Mind Games (全員)
27. Happy X'mas (全員)
プロモーション・ビデオ【イマジン】
28. Imagine (全員)
映像【ジョンが振り廻る映像】

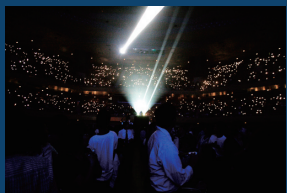


Photo: © Joe Takano/Produce Centre Co., Ltd.
ONOCHORDによる「I LOVE YOU」のサイン



Photo: © Teppei/Produce Centre Co., Ltd.
天国のジョンに贈る「Happy X'mas」

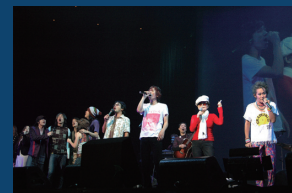


Photo: © Teppei/Produce Centre Co., Ltd.
全員で「Imagine」を歌い感動のフィナーレへ